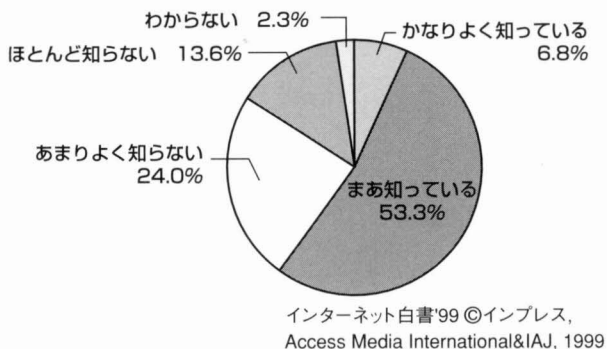


第4章 非インターネット利用者

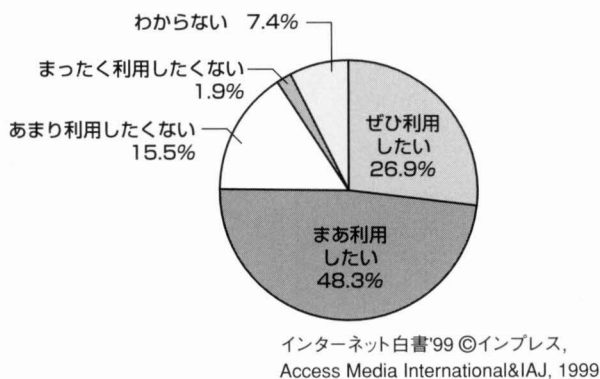
非インターネット利用者の意識

インターネットの認知度進む

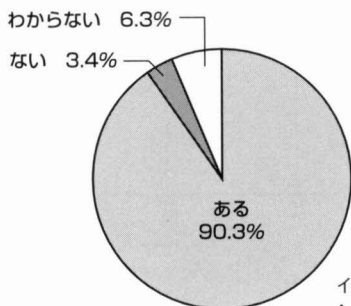
資料1-4-1 インターネットの認知度 N=704



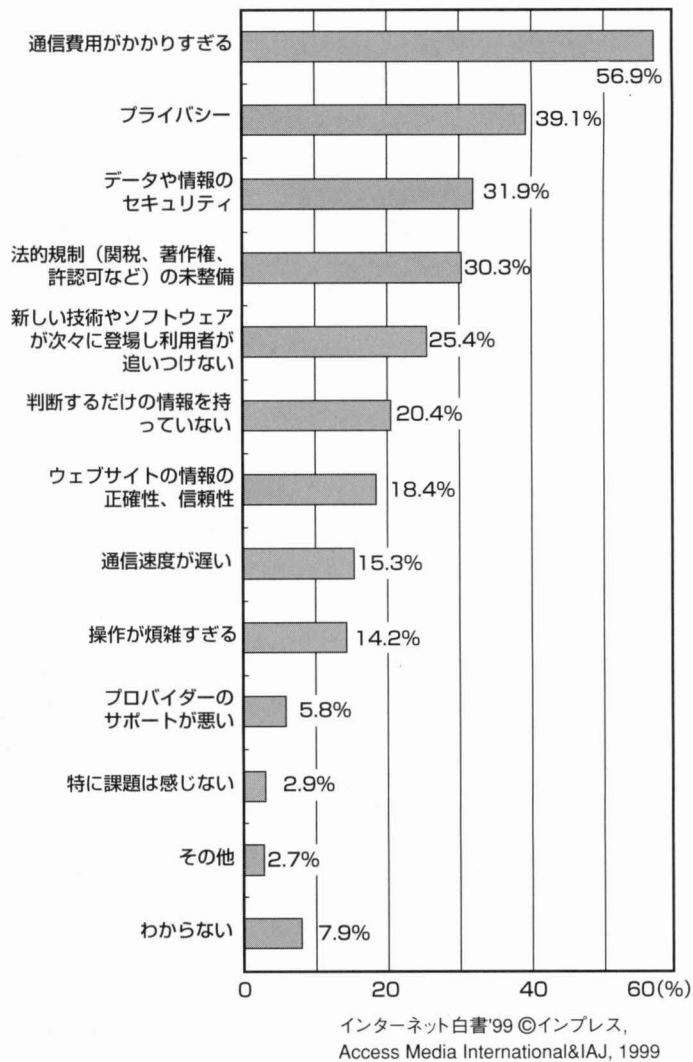
資料1-4-2 インターネットの利用意向 N=592



資料1-4-3 インターネットを利用した犯罪やセキュリティに関する記事、ニュースなどの接触経験 N=592



資料1-4-4 インターネットの今後の課題 N=445



解説

「非インターネット利用者の利用意向調査」では例年通り、パソコン所有世帯のなかで「現在インターネットを利用していない」と答えた世帯から1,200世帯を抽出し、郵送調査により704サンプルの有効回答を得た。

インターネットの認知度では「かなりよく知っている」と「まあ知っている」の合計が60.1%を占める一方「ほとんど知らない」は13.6%にすぎず、インターネットの認知自体はかなり進んでいると言える。AMIが今年3月に行なった「1999年 家庭内情報関連機器利用実態調査」でも「インターネットには関心がない」パソコンユーザーが12.4%おり、この調査の「ほとんど

知らない」にほぼ匹敵する。

さらに「あまりよく知らない」（が、多少はインターネットを知っている）を加えた合計84.1%に今度の利用意向を聞いた結果、「利用したい」の合計は75.2%、一方「利用したくない」の合計は17.4%であった。これを過去2年の結果と比べると若干ではあるが利用意向は減っている。

最近のインターネット利用者の増加からみて、すでにインターネットを利用したい人は始めてしまっていることが推測できる。

犯罪やセキュリティに関する情報に関しては、非利用者であるにもかかわらず、90.3%が接触経験ありと回答している。また、今後の課

題についても「通信費がかかりすぎる」という経済的な理由の次に、「プライバシー」や「データや情報のセキュリティ」を課題として挙げており、今後インターネットは、物理的な要因の解決だけで利用者が増加するのではなく、利用の安全性なども問われる時代へと変わってきている。

(矢野さよみ)

アクセスメディア インターナショナル株式会社



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp